

## 今月のメッセージ (2013年12月)

日本銀行富山事務所長  
佐子 裕厚

### 富山県企業局電気課

10月の3連休。知人の方にご一緒いただいて、岐阜県との県境の白木峰(1,596メートル)に登ってきました。頂上に湿原が広がり(池もありました)気持ちのよい散策と紅葉の観賞を堪能できました。

登山からの帰り道。大長谷川という川沿いに何か所か発電所を見かけました。知人の方にお尋ねしたところ、「県営の発電所ですよ」とのこと。県が経営する発電所・・・、少し意外な感じがしました。

富山県の電気事業の歴史は古く、1920年に開始されました。事業開始当初は電気局と称していたそうですが、現在では、井田川水系、上市川水系、小矢部川水系、和田川水系に発電所を有し、富山県全体の電力消費量の5%程度を賄っています<sup>1</sup>。

富山県が県営発電所を建設したのは大正期の財政窮乏対策(売電による県収増を期待)の由ですが、県が発電所を経営するくらい富山県の水力が豊富だったためとも言えます。ちなみに、富山県のエネルギー自給率は現在でも全国第2位です(2011年)<sup>2</sup>。

富山市の中心部に富山市科学博物館という施設があります。

家族連れで賑わうこの博物館の一角に1台の古ぼけた水力発電機がポツンと置かれています。右から古い字体で「東京月島」と刻印されたこの発電機は、1918年に当時の朝日町笹川に設置され、近隣の小川温泉旅館に電気を供給したほか、地域の住民にも各戸一灯分の電気を供給したのです。

今の小水力発電の走りとも言えるような小さな発電機は、富山県と水力発電の関わりの深さを示す記念碑のようでした。ちなみに、企業局電気課では、2009年から農業用水路を使った小水力発電所を設置し始め、現在では2か所の小水力発電所を有しています。

以 上

<sup>1</sup> 富山県の電灯電力需要実績(平成22年度)は11,862,698千kwh。これに対し、富山県の年間目標供給電力量は573,275千kwhです。

<sup>2</sup> 各都道府県に設備がある再生エネルギーの供給量を当該都道府県のエネルギー需要量で割ったもの。富山県は16.9%(全国第1位は大分県の23.3%)。千葉大学の試算を引用。